



JFE

JFEグループ インベスターズ・ミーティング

2022年2月8日

JFEホールディングス株式会社

- **JFEグループ 2021年度 第3四半期決算**
- **JFEグループ 2021年度 業績見通し**
- **配当について**
- **事業会社別 業績の状況**
- **トピックス（ESG課題への取り組み等）**

JFEグループ
2021年度 第3四半期決算



2021年度 第3四半期決算概要

JFE

原料価格高騰によるコストの上昇がある一方で、**堅調な鋼材需要と鋼材市況、販売価格改善の取り組み**等により、鉄鋼事業を中心に**収益は大幅に回復**

(億円)	2020年度 (実績)		2021年度 (実績)		増減 4-12月累計
	10-12月	4-12月累計	10-12月	4-12月累計	
売上収益	8,261	23,184	11,544	30,973	7,789
事業利益	531	▲611	1,239	3,228	3,839
金融損益	▲30	▲94	▲29	▲85	9
セグメント利益	501	▲706	1,210	3,142	3,848
個別開示項目	—	—	▲104	▲104	▲104
税引前利益	501	▲706	1,106	3,038	3,744
税金費用・非支配持分 帰属当期利益	▲140	9	▲283	▲807	▲816
親会社の所有者に帰属 する当期利益	360	▲696	822	2,230	2,926

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

2021年度 第3四半期決算概要 セグメント別

JFE

(億円)	2020年度 (実績)		2021年度 (実績)		増減 4-12月累計
	10-12月	4-12月累計	10-12月	4-12月累計	
売上収益					
鉄鋼事業	5,802	16,075	8,328	22,432	6,357
エンジニアリング事業	1,292	3,512	1,298	3,591	79
商社事業	2,249	6,766	3,293	8,737	1,971
調整額	▲1,082	▲3,169	▲1,375	▲3,786	▲617
合計	8,261	23,184	11,544	30,973	7,789
事業利益 (A)	531	▲611	1,239	3,228	3,839
金融損益 (B)	▲30	▲94	▲29	▲85	9
セグメント利益					
鉄鋼事業	343	▲1,019	935	2,520	3,539
エンジニアリング事業	109	196	102	213	17
商社事業	65	137	162	419	282
調整額	▲16	▲21	10	▲10	11
合計 (A+B)	501	▲706	1,210	3,142	3,848

JFEグループ 2021年度 業績見通し

2021年度 業績見通し (対前回)

JFE

- 鉄鋼事業については、生産量減による影響はあるものの、鋼材価格改善の取り組みの成果や、国内外のグループ会社収益向上等を見込み、**前回公表から収益好転（セグメント利益3,030億円）**を想定
- グループ全体の事業利益は、鉄鋼・商社事業の増益を踏まえ、**前回公表比+300億円好転**の見通し

(億円)	前回見通し (11/5) 年間	今回見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益	43,400	19,429	24,271	43,700	300
事業利益	3,600	1,988	1,912	3,900	300
金融損益	▲100	▲56	▲44	▲100	0
セグメント利益	3,500	1,932	1,868	3,800	300
個別開示項目	-	-	▲120	▲120	▲120
税引前利益	3,500	1,932	1,748	3,680	180
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲1,000	▲524	▲456	▲980	20
親会社の所有者に帰属する 当期利益	2,500	1,407	1,293	2,700	200

2021年度 業績見通し（対前回） セグメント別

JFE

(億円)	前回見通し (11/5) 年間	今回見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益					
鉄鋼事業	31,900	14,104	17,996	32,100	200
エンジニアリング事業	5,200	2,292	2,808	5,100	▲100
商社事業	12,100	5,444	6,656	12,100	0
調整額	▲5,800	▲2,411	▲3,189	▲5,600	200
合計	43,400	19,429	24,271	43,700	300
事業利益 (A)	3,600	1,988	1,912	3,900	300
金融損益 (B)	▲100	▲56	▲44	▲100	0
セグメント利益					
鉄鋼事業	2,800	1,585	1,445	3,030	230
エンジニアリング事業	250	111	139	250	0
商社事業	450	256	274	530	80
調整額	0	▲20	10	▲10	▲10
合計 (A+B)	3,500	1,932	1,868	3,800	300



2021年度 業績見通し（対前年度）

JFE

原料価格高騰によるコスト上昇があるものの、
鋼材需要回復や鋼材市況の上昇、販売価格改善の取り組みの成果等により、
通期の事業利益は3,900億円（前年度比+4,029億円）の見通し

(億円)	2020年度 実績 年間	2021年度見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益	32,272	19,429	24,271	43,700	11,428
事業利益	▲129	1,988	1,912	3,900	4,029
金融損益	▲124	▲56	▲44	▲100	24
セグメント利益	▲254	1,932	1,868	3,800	4,054
個別開示項目	204	－	▲120	▲120	▲324
税引前利益	▲49	1,932	1,748	3,680	3,729
税金費用・非支配持分帰属当期利益	▲169	▲524	▲456	▲980	▲811
親会社の所有者に帰属する当期利益	▲218	1,407	1,293	2,700	2,918

2021年度 業績見通し（対前年度） セグメント別

JFE

(億円)	2020年度 実績 年間	2021年度見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益					
鉄鋼事業	22,552	14,104	17,996	32,100	9,548
エンジニアリング事業	4,857	2,292	2,808	5,100	243
商社事業	9,325	5,444	6,656	12,100	2,775
調整額	▲4,461	▲2,411	▲3,189	▲5,600	▲1,139
合計	32,272	19,429	24,271	43,700	11,428
事業利益 (A)	▲129	1,988	1,912	3,900	4,029
金融損益 (B)	▲124	▲56	▲44	▲100	24
セグメント利益					
鉄鋼事業	▲654	1,585	1,445	3,030	3,684
エンジニアリング事業	240	111	139	250	10
商社事業	200	256	274	530	330
調整額	▲41	▲20	10	▲10	31
合計 (A+B)	▲254	1,932	1,868	3,800	4,054

連結キャッシュフロー、Debt/EBITDA倍率見通し

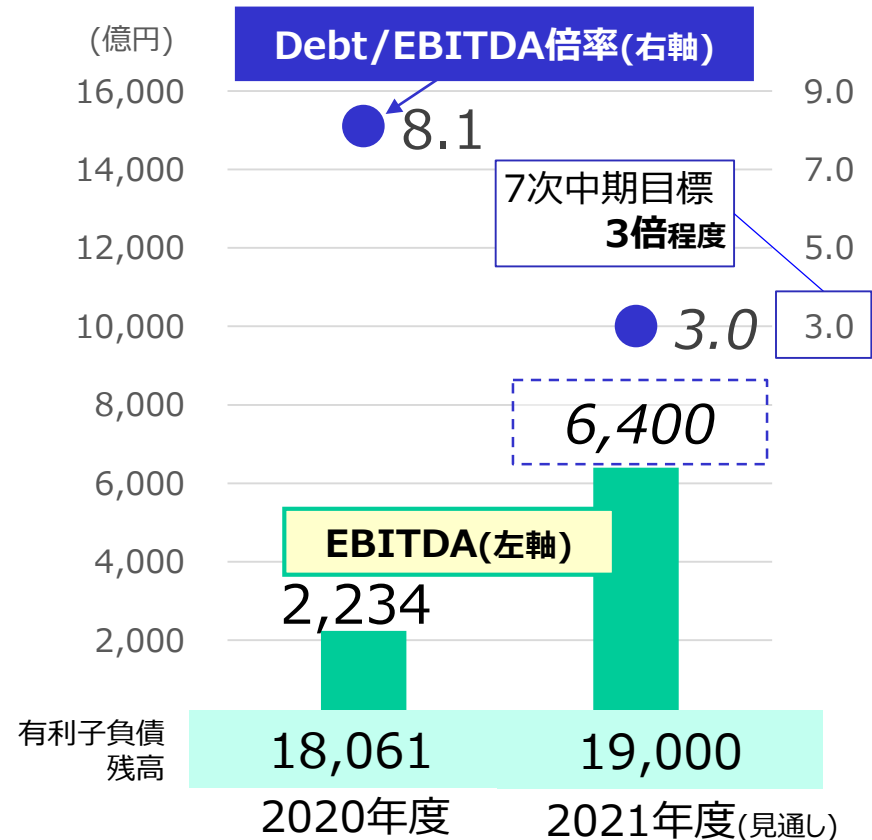
2021年度末のDebt/EBITDA倍率は、7次中期目標レベルに到達（3.0倍）

連結キャッシュフロー見通し

(億円)

Cash-in	Cash-out
当期利益 2,700	設備投資 および投融資 3,500
減価償却費 および償却費 2,500	配当金支払 400 運転収支他 2,650
資産圧縮 450	
有利子負債 900	

Debt/EBITDA倍率の推移



- Debt/EBITDA倍率 = 有利子負債残高/EBITDA
- EBITDA = 事業利益 + 減価償却費及び償却費

配当について



当期の期末配当については、
1株当たり80円（年間140円）とする案を
株主総会にお諮りする方針といたしました。

JFEスチール
2021年度 第3四半期決算
2021年度 業績見通し

2021年度 第3四半期決算

JFE

	単位	2020年度					2021年度		
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間	4-6月	7-9月	10-12月
売上収益	億円	5,087	5,186	5,802	6,476	22,552	6,385	7,719	8,328
セグメント利益	億円	▲578	▲784	343	364	▲654	697	888	935
棚卸資産 評価差等除*	億円	▲348	▲334	143	224	▲314	257	428	▲35
単独 粗鋼生産量	万t	479	538	627	632	2,276	625	645	649
連結 粗鋼生産量	万t	509	568	659	660	2,396	659	680	685
単独 鋼材出荷量	万t	459	475	542	572	2,049	526	556	563
鋼材輸出比率 単独・金額ベース	%	44.2	40.2	40.3	44.3	42.3	43.2	49.3	45.9
鋼材平均価格	千円 /t	75.3	71.0	73.4	78.8	74.8	87.6	101.0	107.6
為替レート	円/ドル	107.7	105.9	104.8	104.7	105.8	109.8	110.0	113.1
期末為替レート	円/ドル	107.7	105.8	103.5	110.7	110.7	110.6	111.9	115.0

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

2020年度4-12月

⇒ 2021年度4-12月 セグメント利益 +3,539億円内訳

販売価格の改善や粗鋼生産量の増加に加え、国内外グループ会社収益の改善により、3,539億円の改善

(億円)

JFEスチール	2020年度 4-12月	2021年度				増減
		4-6月	7-9月	10-12月	4-12月	
セグメント利益	▲1,019	697	888	935	2,520	+3,539

1. コスト

+230

・ 設備投資効果 等

2. 数量・構成

+560

- ・ 鋼材需要回復による数量増
(粗鋼量1,644万t⇒1,920万t)

3. 販価・原料

+170

- (≒鋼材トン当たり：1,000円)
- ・ 主原料価格は上昇するも、
国内外の需給・市況を背景に、スプレッドは改善

4. 棚卸資産評価差等

+2,350

- ・ 棚卸資産評価差+1,640 (▲410→+1,230)
- ・ 原料キャリーオーバー影響+620 (▲20→+600)
- ・ 為替換算差+90(▲50→+40)

5. その他

+229

- ・ 国内外グループ会社収益の改善
- ・ 金属・スクラップ等の物価上昇 等

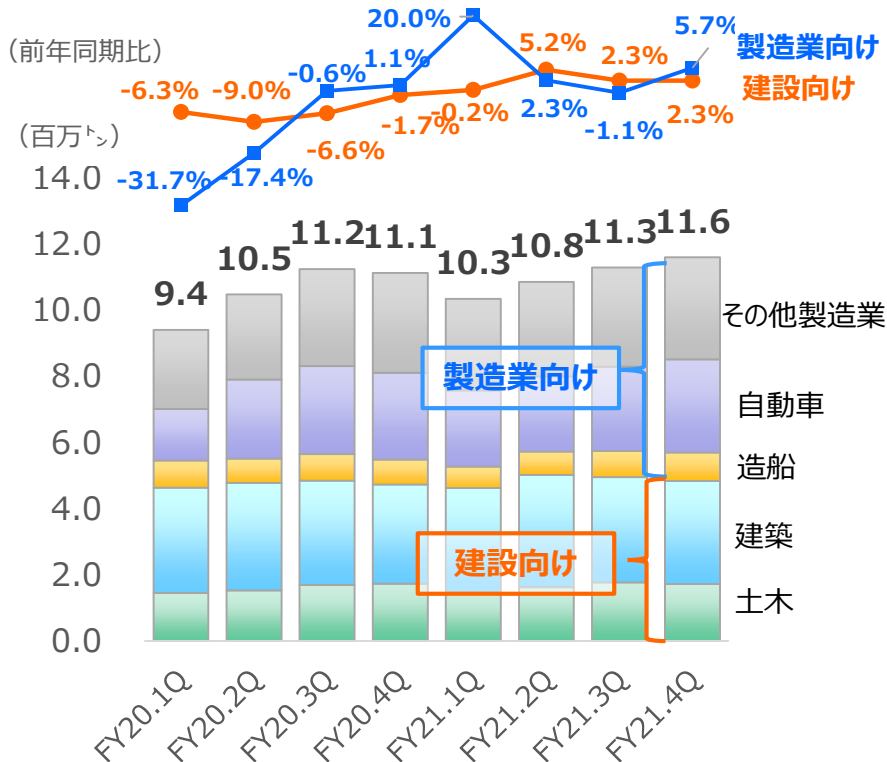


足元の事業環境認識（国内）

JFE

- 半導体不足や供給制約による自動車減産等により**鋼材需要は一時的に弱含むも、回復基調は継続**
- 4Qの国内普通鋼鋼材消費見通しは**前年同期比+4.2%、前期比+2.8%**と増加する見通し
- **21年度自動車生産台数は800万台程度**（対前回見通し▲20万台）と下方修正するが、活動水準は徐々に回復
- オミクロン株の感染拡大が鋼材需要に与える影響については、引き続き注視が必要

【国内普通鋼 鋼材消費見通し】



分野	見通し概況
自動車	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足や部品供給制約により生産活動の低下が継続 供給制約が徐々に緩和されると想定するが、正常化は来年度以降と想定 年間生産台数は、800万台程度を想定
造船	<ul style="list-style-type: none"> 新造船受注は世界経済の回復に伴う荷動・用船市況の上昇等を背景に堅調に推移、手持ち工事量も安定水準を維持 一方で、日系造船会社については、資機材費の高騰により、新造船受注へ慎重な姿勢も見られる
製造業其他	<ul style="list-style-type: none"> インフラ・住宅投資等の好調を受け建機需要は堅調に推移 産業機械も、インフラやEV等への設備投資など内外需とも堅調に推移
土木	<ul style="list-style-type: none"> 公共分野は国土強靱化対策に支えられ、底堅く推移 1-3月は季節要因もあり鋼材需要は前期比で減少する見通しだが、鋼材需要全体は前年を上回る見込み
建築	<ul style="list-style-type: none"> 再開発案件など、大型案件や物流倉庫は堅調に推移 コロナ禍で停滞していた店舗・事務所関連の動きだしも見られる

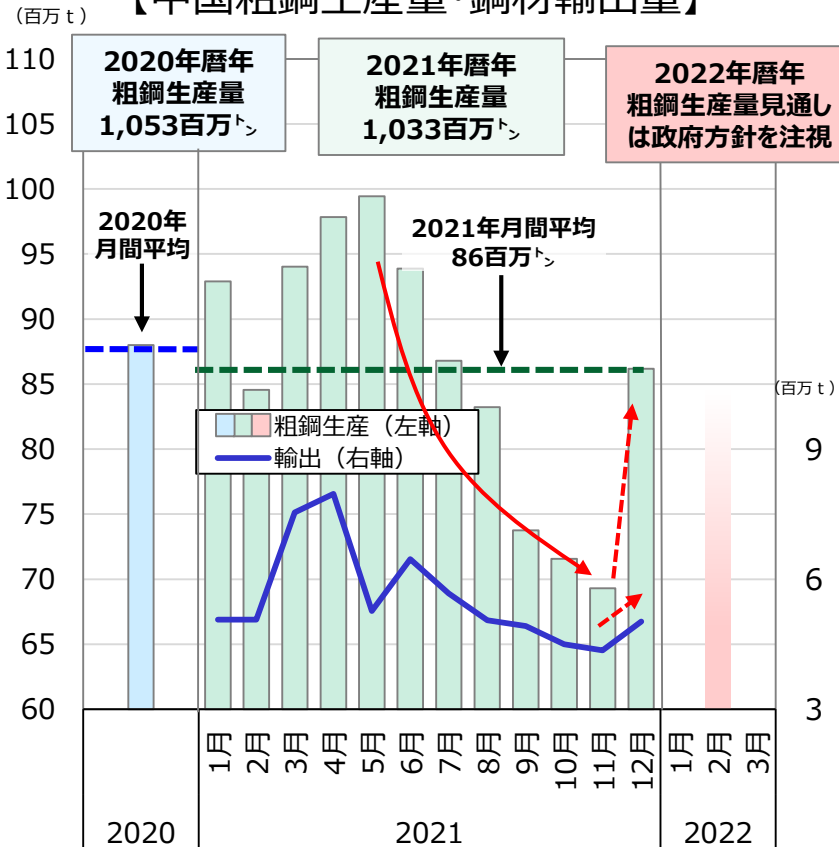
出所：12月23日 経済産業省 鋼材需要見通し（FY21.1Q以降は推定実績）

足元の事業環境認識（海外）



- 世界経済の回復に伴い、**鋼材需要は総じて回復基調が継続**する見込みだが、自動車分野の減産長期化、コロナ拡大による建築需要停滞、また中国経済の鈍化を受け、**鋼材需給は一時的に緩和し、市況は下落**
- 今後、**供給制約の緩和による自動車生産の回復、コロナ対策の進展、中国経済の復調により、再度需給が引き締まり、市況は回復する**と想定

【中国粗鋼生産量・鋼材輸出量】



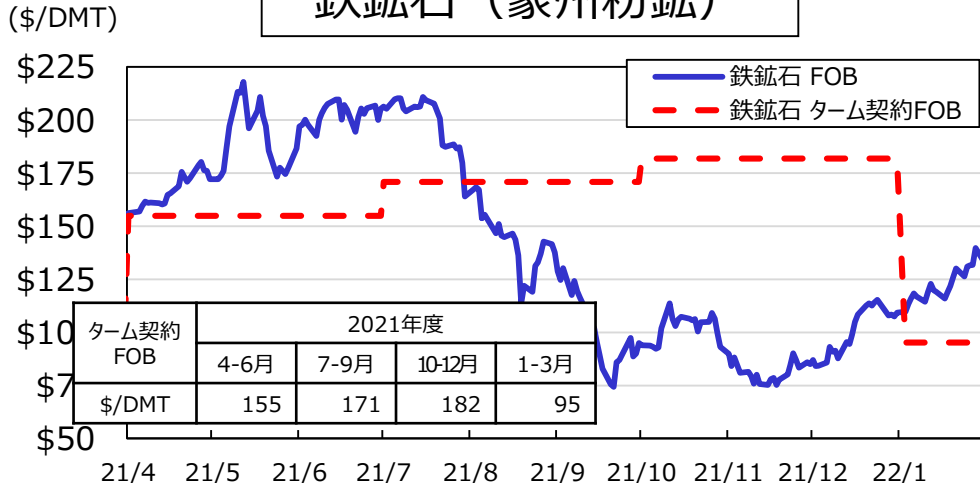
【各国情勢・動向の見通し】

要素	見通し概況
中国ミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> 足元、金融引き締め政策によるインフラ投資の減少や、コロナ対策による行動制限により内需が停滞。12月は鋼材輸出が増加 引き続き環境対策に重点をおき、粗鋼生産・鋼材輸出抑制方針は継続されると想定 中国経済の復調に伴い、中国国内の需給はタイト化すると想定しているが、中国政府の方針・政策を注視
インドミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> 国内のコロナ感染はピークアウトしたものの、自動車減産等の影響を受け、需要の回復は力強さに欠ける 輸出については、欧州での鋼材需要減少が長期化した場合、東南アジアにむかう可能性もあり
ロシアミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> 主要な販売先である欧州・トルコでのコロナ再拡大や自動車減産が長期化した場合、アジアを含む世界各地への価格攻勢、数量確保に動く可能性があり、注視が必要
東南アジアの状況	<ul style="list-style-type: none"> コロナ拡大が建築業等に影響。域内内需は低迷 インドミル等による数量確保姿勢もあり、需給は一時的に緩和し、鋼材市況は足元軟化 今後、自動車生産の回復、コロナ対策の進展に伴い、需給は再びタイトに向かい、市況回復を想定

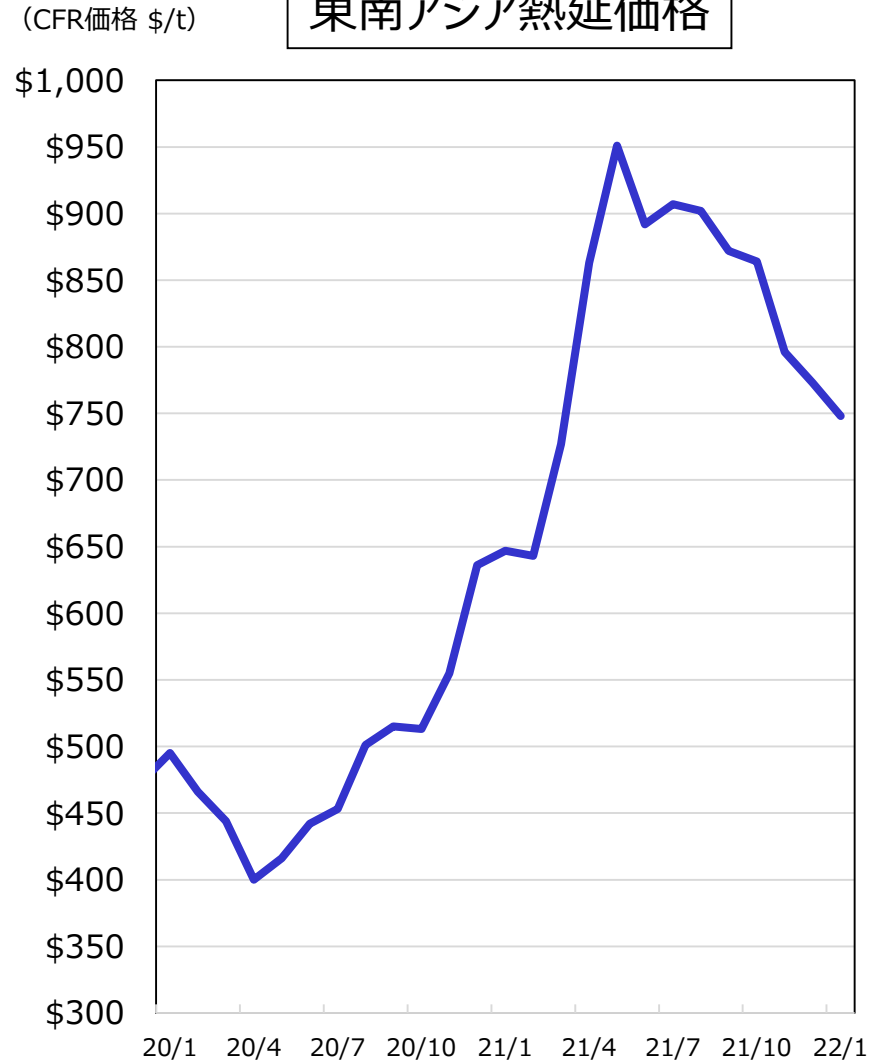
業績見通しの前提（原料市況、鋼材市況）



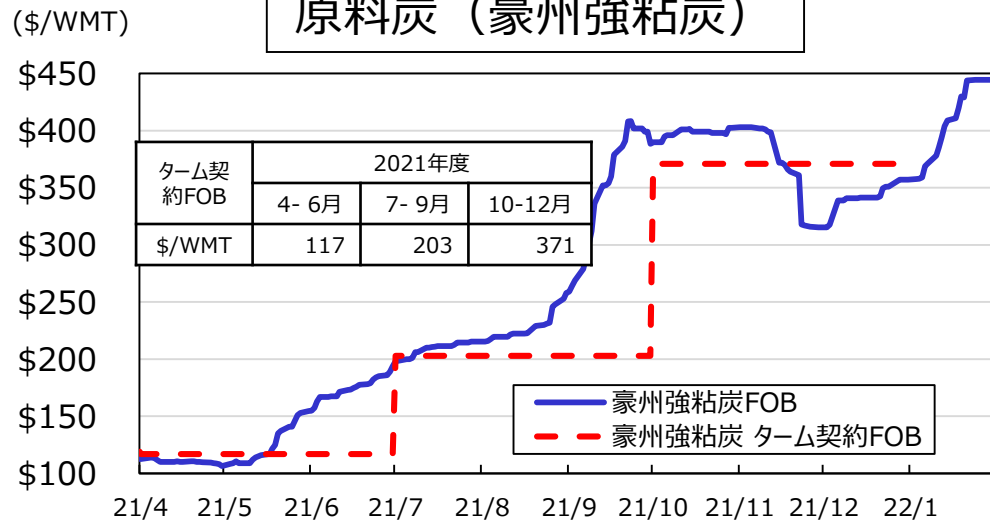
鉄鉱石（豪州粉鉱）



東南アジア熱延価格



原料炭（豪州強粘炭）





業績見通しの前提

JFE

粗鋼生産量見通し

- 21年度の単独粗鋼生産量は、**2,600万トン程度**を見込む（対前回見通し▲50万トン減）
 - 倉敷第4高炉の早期立ち上げを実行し、順調に稼働
 - 足元の鋼材需要が一時的に緩和している状況を踏まえ、**価格優先の合理化生産を志向**

メタルスプレッド

- 国内輸出トータルのスプレッドは**前回見通し比+70億円の改善**を見込む
主原料価格は高値圏が継続、海外市況の軟化も見られるが、国内販価の改善を強力に推進し、スプレッドは改善を織り込む
 - 原料炭価格**
足元市況は過熱しすぎていると見ているが、収束に一定程度時間を要すると見ており、**当面は高値圏継続**と想定
 - 販売価格** 国内：主原料コストの販売価格への早期反映の取り組みが想定以上に広く定着したため、**更なる販売価格改善を業績見通しに反映**
輸出：海外市況の軟化に伴い、**一定の市況調整**を見込む

金属価格

- 需給のタイト化に加え、各国の電力価格上昇等を背景に、引き続き**歴史的な高値圏で推移**

JFEスチール 2021年度 業績見通し

JFE

	単位	2020年度 年間 実績	2021年度					2021年度 年間 (前回) 見通し
			上期 実績	下期		年間 見通し		
				10-12月 実績	1-3月 見通し		見通し	
売上収益	億円	22,552	14,104	8,328	9,668	17,996	32,100	31,900
セグメント利益	億円	▲654	1,585	935	510	1,445	3,030	2,800
棚卸資産評価差等除き*	億円	▲314	685	▲35	620	585	1,270	1,190
単独粗鋼生産量	万 t	2,276	1,270	649	680 程度	1,330 程度	2,600 程度	2,650 程度
連結粗鋼生産量	万 t	2,396	1,339	685	715 程度	1,400 程度	2,740 程度	
単独鋼材出荷量	万 t	2,049	1,083	563	624 程度	1,187 程度	2,270 程度	
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	42.3	46.5	45.9	44	45	46	
鋼材平均価格	千円/t	74.8	94.5	107.6	115 程度	111 程度	103 程度	
為替レート	円/ドル	105.8	109.9	113.1	115	114	112	110 程度

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

2021年度 セグメント利益 対前回見通し +230億円内訳

JFE

主原料コストの早期反映を含む販売価格改善および、
国内外グループ会社収益の向上により、対前回で改善を見込む

(億円)

JFEスチール	2021年度 前回見通し	2021年度 今回見通し	増減 対前回
セグメント利益	2,800	3,030	+230

1. コスト

±0

2. 数量・構成

▲90

- 粗鋼量 2,650万t程度→2,600万t程度

3. 販価・原料

+70

- (≒鋼材トンあたり：+300円)
- 主原料コストの早期反映を含む販価改善により、スプレッド改善

4. 棚卸資産評価差等

+150

- 棚卸資産評価差+130 (+1,380→+1,510)
- 原料キャリーオーバー影響▲10 (+220→+210)
- 為替換算差+30(+10→+40)

5. その他

+100

- 国内外グループ会社収益の向上
- 金属類の物価上昇等

2021年度 セグメント利益 対前年度 +3,684億円内訳

JFE

- 新型コロナウイルス影響を大きく受けた2020年度からは需給環境が大幅に回復
- 主原料コストの販売価格への早期反映、輸出を中心とした市況好転・数量増、国内外のグループ会社収益の改善により、対前年度で大幅な改善を見込む

(億円)

JFEスチール	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減 対前年度
セグメント利益	▲654	3,030	+3,684
1. コスト	+300	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資効果 安価原料使用拡大 等 	
2. 数量・構成	+630	<ul style="list-style-type: none"> 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量 2,276⇒2,600万t程度) 	
3. 販価・原料	+930	(≒鋼材トンあたり：+4,100円) <ul style="list-style-type: none"> 主原料市況は大幅に上昇する見通しも、主原料コストの早期反映や、需給・市況環境を背景とした販売価格上昇によりスプレッド改善 	
4. 棚卸資産評価差等	+2,100	<ul style="list-style-type: none"> 棚卸資産評価差+1,880 (▲370→+1,510) 原料キャリアオーバー影響+180 (+30→+210) 為替換算差+40(±0→+40) 	
5. その他	▲276	<ul style="list-style-type: none"> 国内外グループ会社収益の改善 金属・スクラップ等の物価上昇 等 	

2021年度上期⇒下期 セグメント利益 ▲140億円内訳

JFE

- 下期にかけて粗鋼生産量は増加し、コスト改善が進捗
- 主原料コストの早期反映を含む販価改善によりスプレッドは改善を見込むものの、その他原料の物価上昇を受け、下期損益は上期からの悪化を見込む

(億円)

JFEスチール	2021年度 見通し			増減 2021上→下
	上期 実績	下期 見通し	年間	
セグメント利益	1,585	1,445	3,030	▲140
1. コスト	+150			<ul style="list-style-type: none"> • 設備投資効果 • ソフト改善 等
2. 数量・構成	+170			<ul style="list-style-type: none"> • 国内外の経済復調を背景に、緩やかな需要回復を見込む • 倉敷第4高炉の改修工事完了に伴う生産量増 (粗鋼量 1,270万t⇒1,330万t程度)
3. 販価・原料	+430			(≒鋼材トンあたり：+3,600円) <ul style="list-style-type: none"> • 主原料物価は上昇も、早期反映を含む販価改善によりスプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	▲40			<ul style="list-style-type: none"> • 棚卸資産評価差+330 (+590→+920) • 原料キャリーオーバー影響▲390 (+300→▲90) • 為替換算差+20(+10→+30)
5. その他	▲850			<ul style="list-style-type: none"> • 減価償却費・経費 • 金属・スクラップ等の物価上昇 等

JFEエンジニアリング 2021年度 業績見通し

2021年度 業績見通し

JFE

足元の事業環境/損益概況

- 国内の事業環境は環境・エネルギー関連分野およびインフラ分野ともに堅調に推移
- 海外については、欧州の環境関連分野は引き続き堅調に推移
アジア他の地域では一部新型コロナウイルスの影響による出件時期ズレあり
- 企業買収による増収等により、セグメント利益は前年度を上回る見通しで引き続き安定的な収益を確保

業績見通し

(億円)	20年度実績		21年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		21年度見通し (前回)	
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	下期	年間
受注高	2,022	5,011	2,777	5,300	755	289	2,977	5,500
売上収益	2,637	4,857	2,808	5,100	171	243	2,908	5,200
セグメント利益	153	240	139	250	▲14	10	139	250

対前年度

<年間>	・受注高	+289	企業買収、カーボンニュートラル分野の大型案件の受注増
	・売上収益	+243	前年度受注拡大、企業買収による増加
	・セグメント利益	+10	売上収益増により増加

対前回見通し

<下期>	・受注高	▲200	海外案件の出件時期ズレ
	・売上収益	▲100	出件時期変更等による出来高減少 (売上減によるセグメント利益減はコストダウンによりカバー)

JFE商事

2021年度 業績見通し



2021年度 業績見通し

JFE

足元の事業環境/損益概況

- 国内は、半導体不足等による自動車の生産台数減の影響が見受けられるが、造船需要の回復や鋼材全般の市況上昇を受け、**好調を維持**
- 海外では、鋼材市況がピークアウトしつつあるものの、**北米グループ会社を中心に増益基調が継続**する見込み
- 通期では**セグメント利益530億円(対前回見通し比+80億円、対前年度比+330億円)**の見通し

業績見通し

(億円)	20年度実績		21年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		21年度見通し (前回)	
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	下期	年間
売上収益	4,807	9,325	6,655	12,100	1,848	2,775	6,656	12,100
セグメント利益	128	200	274	530	146	330	194	450

対前年度

- ・昨年度大幅に落ち込んだ需要の回復に加え、国内外の鋼材市況が引き続き堅調に推移したことから、増益の見通し。

対前回見通し

- ・国内外ともに堅調であるが、特に北米グループ会社が引き続き増益基調を継続。

トピックス (ESG課題への取り組み等)

JFEグループにおけるCO₂排出量削減目標について

2022年2月8日 リリース

- 2030年度のCO₂排出量削減目標を30%以上削減(2013年度比)に設定

CO₂排出量削減に向けた当社公表

2020年9月

鉄鋼事業におけるCO₂排出量について、
個社目標を国内鉄鋼他社に先駆けて公表

鉄鋼事業CO₂排出量削減目標

※削減目標起点は全て2013年度

2030年度	20%以上
--------	-------

2021年5月

「JFEグループ環境経営ビジョン2050」を策定
第7次中期経営計画の発表

2024年度末	18%
---------	-----

2050年度	カーボン ニュートラル
--------	----------------

今回

2030年度の
鉄鋼事業CO₂排出量削減目標を改定

2030年度	30%以上
--------	-------

JFEグループにおけるCO₂排出量削減目標について

2022年2月8日 リリース

<削減目標見直しの背景>

- 当社の**カーボンニュートラルに向けた取り組みが進展した**ことに加え、鉄鋼事業を取り巻く**外部環境整備が進んだ**ことを考慮、目標見直し

取り組み

- ✓ **迅速かつ効率的な推進体制**の構築
(専門組織の新設、「カーボンニュートラル推進会議」の設置)
- ✓ **既存技術の適用拡大**や**新規削減アイテムの積み上げ**
(構造改革による高効率化や省エネ、DXによる効率化、等)
 - ➡ **電気炉を含む新プロセス導入**も検討

外部環境

- ✓ **NEDO グリーンイノベーション基金事業**の採択
- ✓ 第6次エネルギー基本計画が閣議決定され、**購入電力の排出係数の改善**が見込まれる

- 研究開発の進捗や具体的な設備投資については都度公表予定

JFEグループにおけるCO₂排出量削減目標について

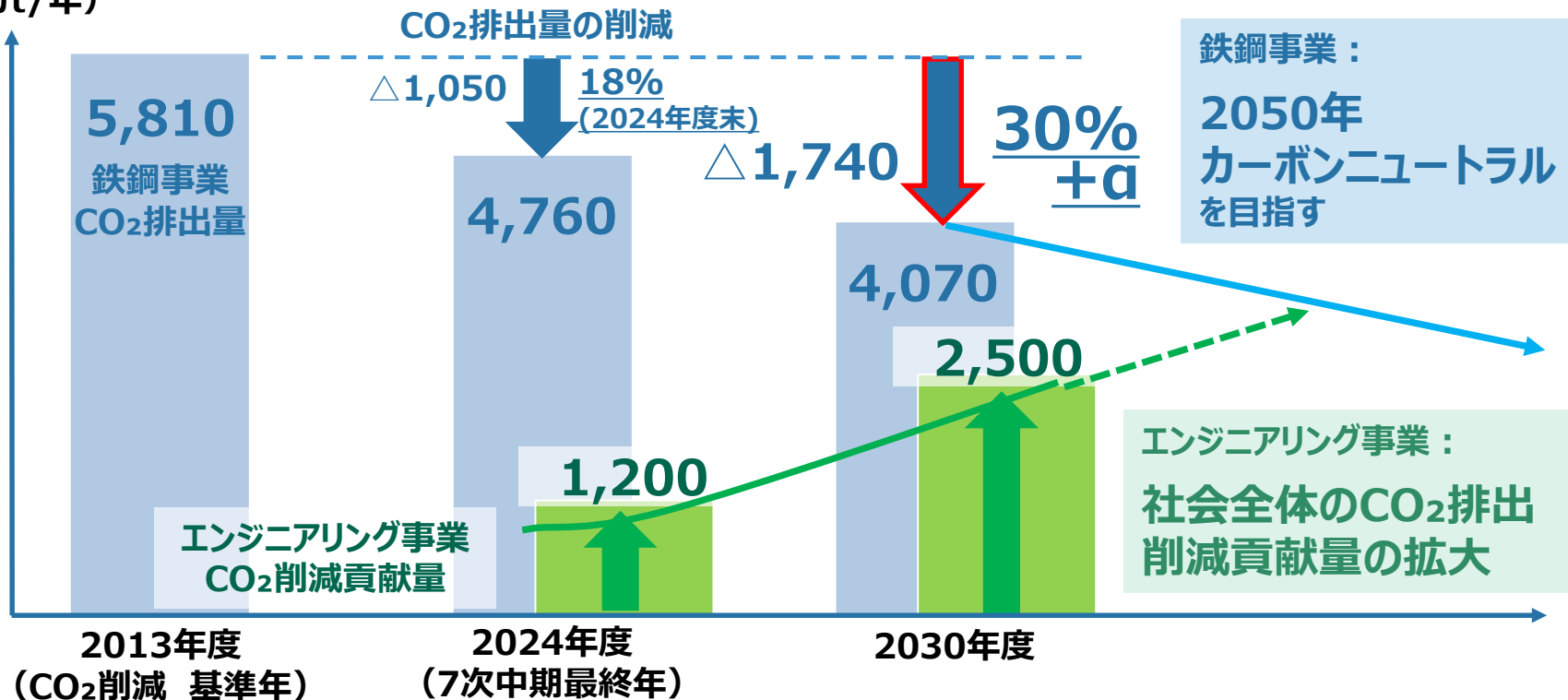
JFE

2022年2月8日 リリース

- JFEグループでは、鉄鋼事業のCO₂排出量削減に加え、エンジニアリング事業による**社会全体のCO₂排出削減への貢献**も推進
グループ全体で持続可能な社会の実現に貢献

<JFEグループ CO₂排出量削減・排出削減貢献量>

(万t/年)



当社提案のカーボンニュートラル技術開発項目が グリーンイノベーション基金事業に採択

JFE

2022年1月7日 リリース

- 当社独自開発技術「カーボンリサイクル高炉」を含む技術開発項目※が
NEDO グリーンイノベーション基金事業に採択

※JFEスチール(株)、日本製鉄(株)、(株)神戸製鋼、(財)金属系材料研究開発センターの共同提案

- 当基金事業で「製鉄プロセスにおける水素活用プロジェクト」を推進、
要素技術開発から小型実験炉建設、実証実験までにかかる費用の一部を補助

グリーンイノベーション基金事業／製鉄プロセスにおける水素活用プロジェクト

補助額 : 1,935億円 (4テーマ)

技術開発項目 :

高炉を用いた水素還元技術の開発

- ① 所内水素を活用した水素還元技術等の開発
- ② 外部水素や高炉排ガスに含まれるCO₂を活用した低炭素化技術等の開発

水素だけで低品位の鉄鉱石を還元する直接水素還元技術開発

- ① 直接水素還元技術の開発
- ② 直接還元鉄を活用した電炉の不純物除去技術開発



国内製造業初のトランジションボンドの発行

JFE

2022年1月20日 リリース

- カーボンニュートラルに向けた様々な取り組み推進のため、公募形式による**トランジションボンド(社債)を発行予定**
- 当社の長期戦略や資金使途、管理体制が評価され、本社債は経済産業省の「クライメート・トランジション・ファイナンスモデル事業に係るモデル事例」に**国内製造業で初めて選定**

トランジションボンド概要

発行時期 : 2022年度中

資金使途 :

- 省エネ・高効率化 (高炉AI・IoT化、スクラップ利用拡大、コークス炉改修等)
- エコプロダクト製造 (電磁鋼板)
- 超革新的
製鉄プロセス開発 (カーボンリサイクル高炉、CCU、水素製鉄、電気炉技術)
- 再生可能エネルギー (バイオマス・地熱・太陽光発電等)

參考資料



主な財務関連データ

JFE

【日本基準】

【IFRS】

見直し

年度	'13	'14	'15	'16	'17	'18
【主要財務指標】(億円、%、倍)						
経常利益	1,736	2,310	642	847	2,163	2,211
EBITDA ※1	3,689	4,215	2,544	2,799	3,888	4,059
ROS ※2	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%	5.9%	5.6%
ROE ※3	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%	7.6%	8.3%
ROA ※4	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%	5.2%	5.1%
借入金・社債等残高(期末)	15,340	15,017	13,793	13,754	13,309	14,499
Debt/EBITDA倍率 ※5	4.2倍	3.6倍	5.4倍	4.9倍	3.4倍	3.6倍
D/Eレシオ ※6	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%	58.1%	62.0%
【1株当たり情報】(円/株、%)						
親会社株主に帰属する当期純利益	177.4	241.6	58.4	117.8	250.8	285.0
配当金	40	60	30	30	80	95
配当性向	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%	31.9%	33.3%

年度	'18	'19	'20	'21
【主要財務指標】(億円、%、倍)				
事業利益	2,320	378	▲129	3,900
EBITDA ※1	4,282	2,694	2,234	6,400
ROS ※2	6.0%	1.0%	▲0.4%	8.9%
ROE ※3	8.6%	▲11.1%	▲1.3%	15.0%
ROA ※4	5.0%	0.8%	▲0.3%	8.0%
有利子負債残高(期末)	15,238	18,143	18,061	19,000
Debt/EBITDA倍率 ※5	3.6倍	6.7倍	8.1倍	3.0倍
D/Eレシオ ※6	68.2%	96.4%	93.2%	85.5%
【1株当たり情報】(円/株、%)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	283.8	▲343.4	▲38.0	468.9
配当金	95	20	10	140
配当性向	33.5%	-	-	29.9%

【日本基準】

※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費

※2 ROS: 経常利益/売上高

※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本

※4 ROA: (経常利益+支払利息)/総資産

※5 Debt/EBITDA倍率: 借入金・社債等残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

【IFRS】

※1 EBITDA: 事業利益+減価償却費及び償却費

※2 ROS: 事業利益/売上収益

※3 ROE: 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社の所有者に帰属する持分

※4 ROA: 事業利益/資産合計

※5 Debt/EBITDA倍率: 有利子負債残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 有利子負債残高/親会社の所有者に帰属する持分

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

2021年度7-9月

⇒2021年度10-12月 セグメント利益 +47億円内訳

JFE

JFEスチール	2021年度					増減
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 見通し	年間 見通し	
セグメント利益	697	888	935	510	3,030	+47

- | | | |
|-------------|-------------|---|
| 1. コスト | +75 | ・ ソフト改善等 |
| 2. 数量・構成 | +20 | ・ 粗鋼量 645⇒649万t +4万t |
| 3. 販価・原料 | ▲500 | (鋼材トンあたり：▲8,900円)
・ 原料炭の物価高騰によるスプレッド悪化 |
| 4. 棚卸資産評価差等 | +510 | ・ 棚卸資産評価差 +330 (+310→+640)
・ 原料キャリーオーバー影響 +150 (+150→+300)
・ 為替換算差 +30 (±0→+30) |
| 5. その他 | ▲58 | ・ 金属等の物価上昇 他 |

2021年度10-12月

⇒2021年度1-3月 セグメント利益 ▲425億円内訳

JFEスチール	2021年度					増減
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 見通し	年間 見通し	
セグメント利益	697	888	935	510	3,030	▲425

1. コスト

±0

2. 数量・構成

+80

・粗鋼量 649⇒680万t +31万t

3. 販価・原料

+1,000

(鋼材トンあたり：+16,000円)

・鉄鉱石価格の下落に加え、前四半期の原料炭価格高騰を販売価格に早期反映し、スプレッド改善

4. 棚卸資産評価差等

▲1,080

- ・棚卸資産評価差▲360(+640→+280)
- ・原料キャリーオーバー影響▲690(+300→▲390)
- ・為替換算差▲30(+30→±0)

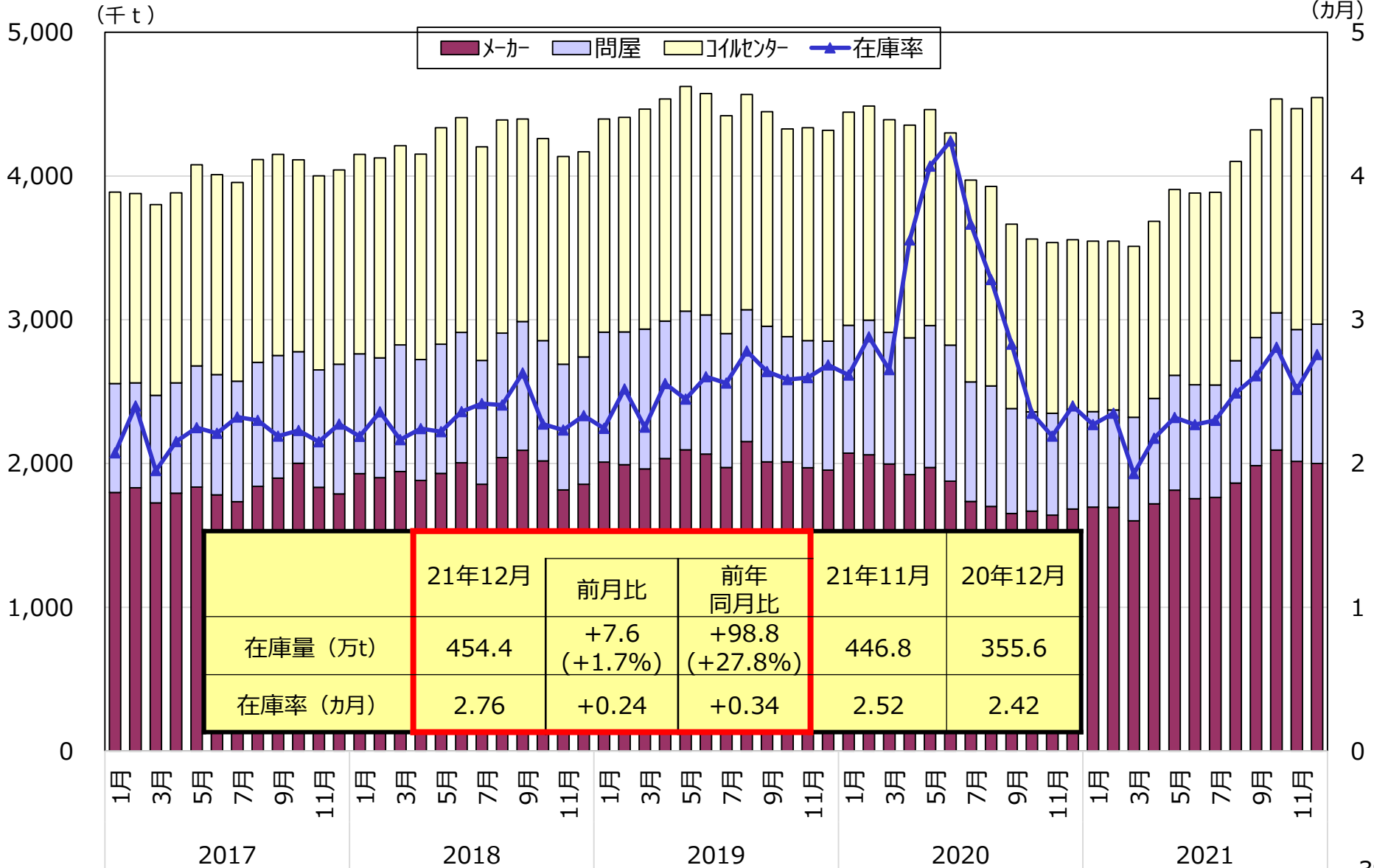
5. その他

▲425

・減価償却費・経費 他

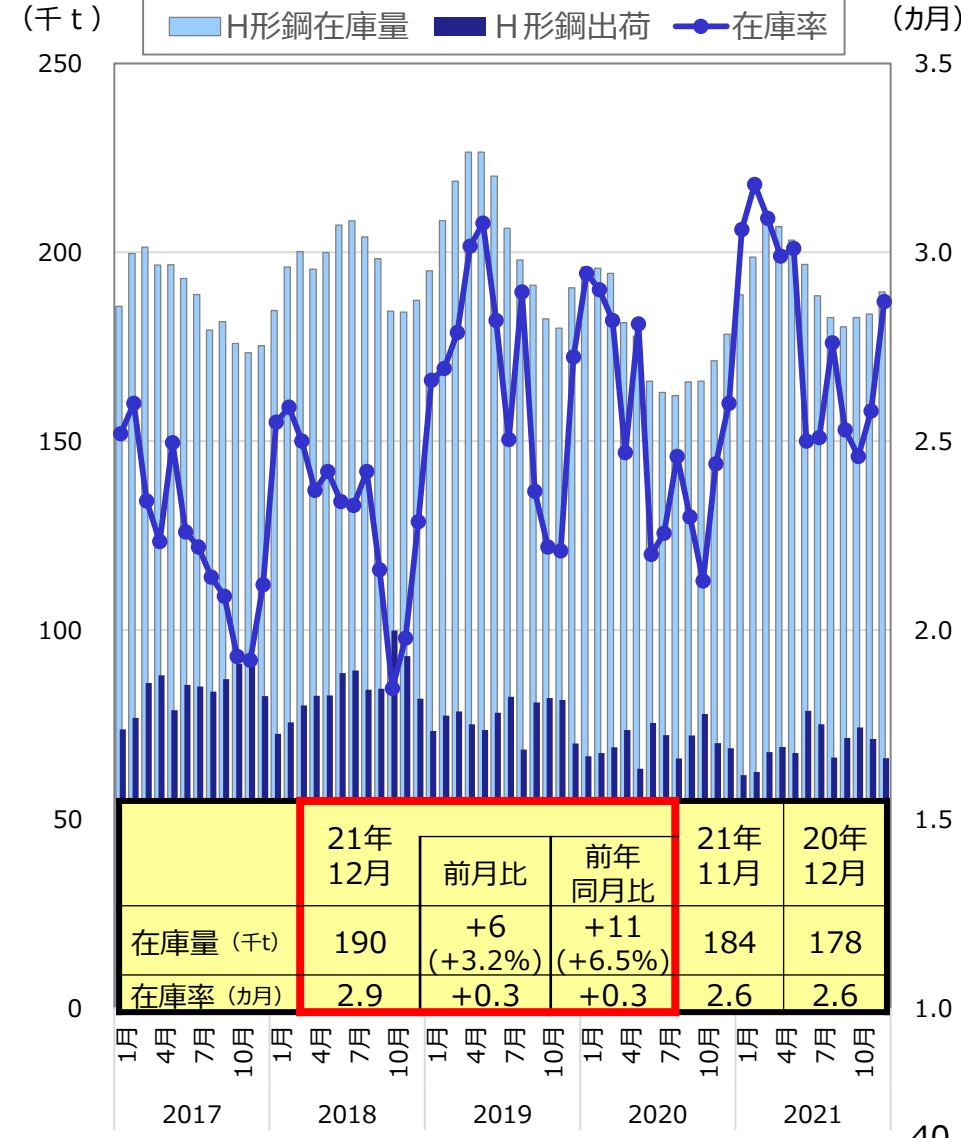
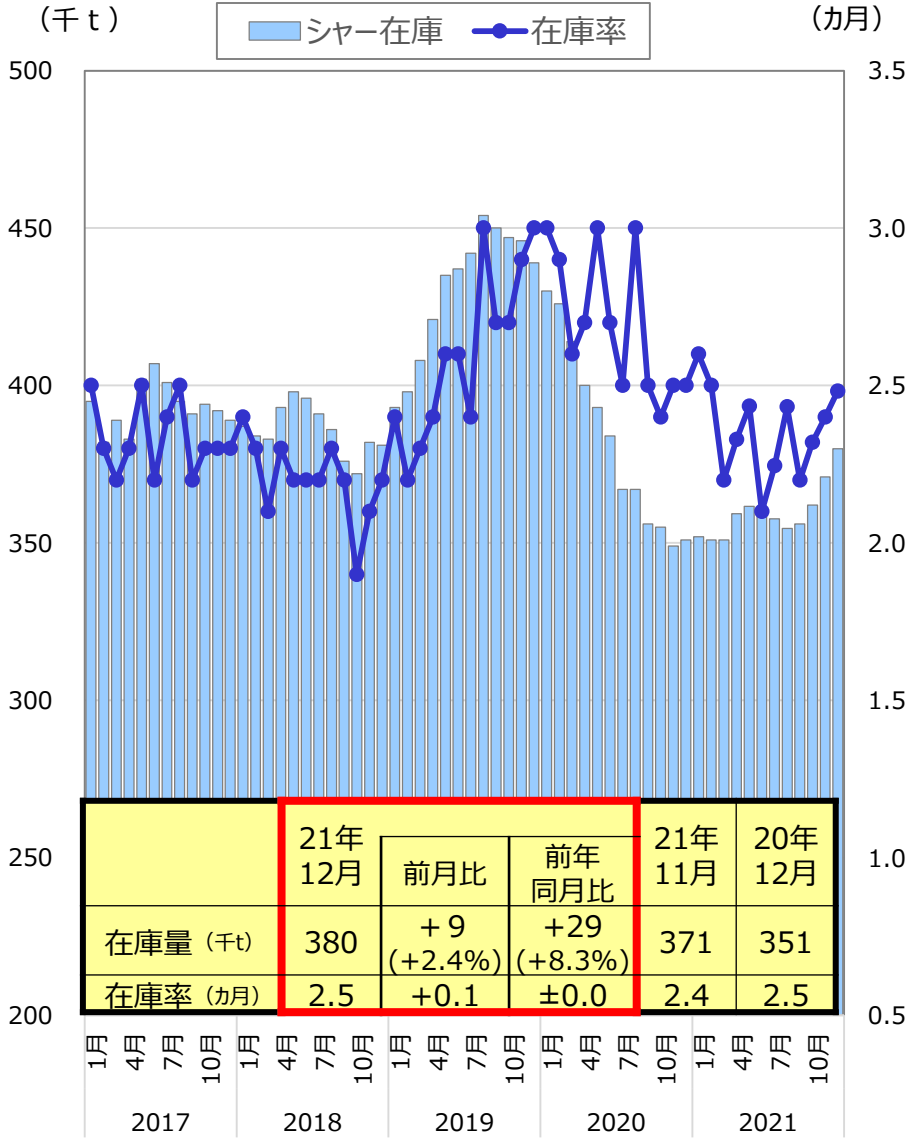
国内販売環境

薄板 3 品在庫



国内販売環境

厚板シャー・H形鋼在庫

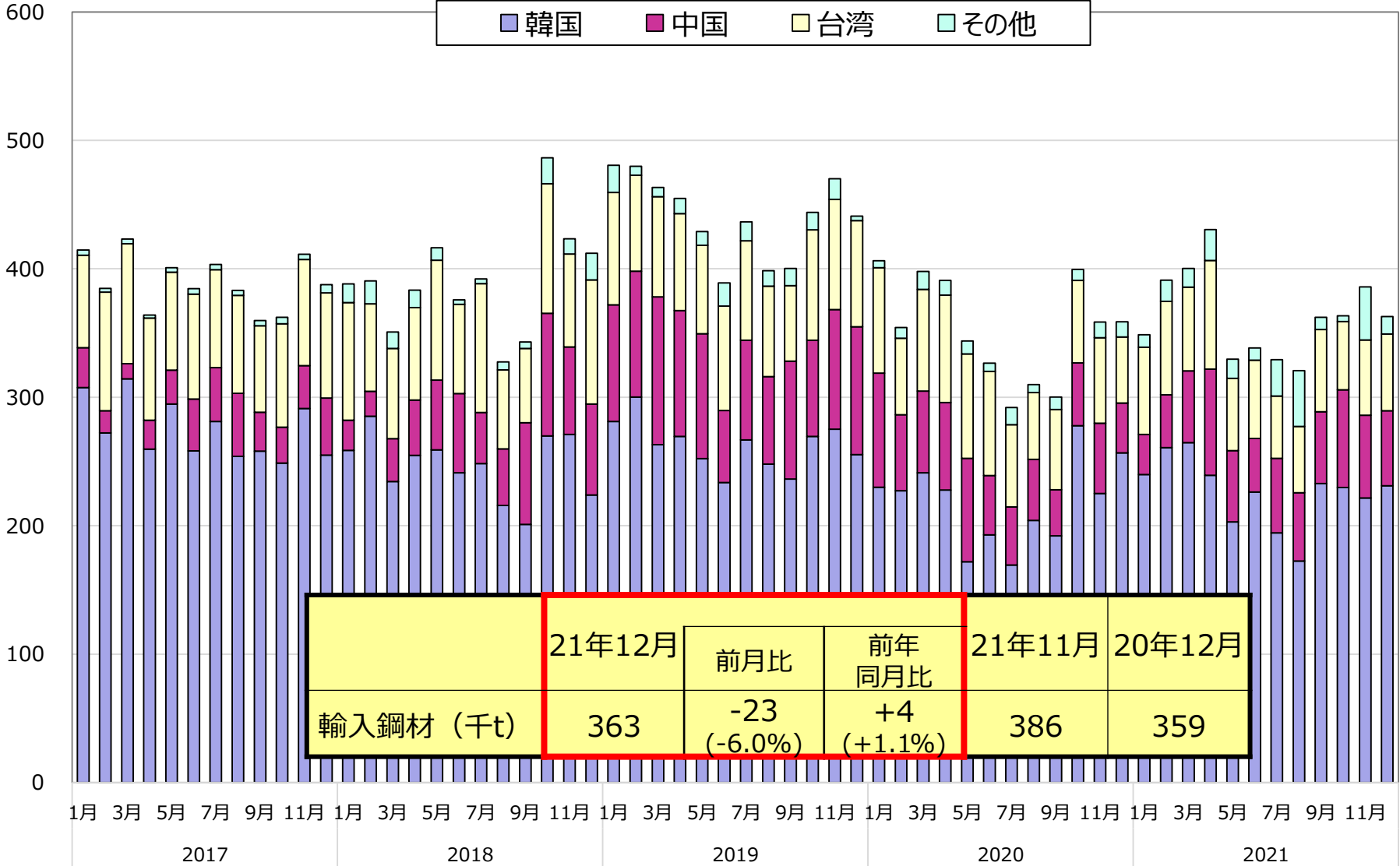


国内販売環境

輸入鋼材 (普通鋼/国別)



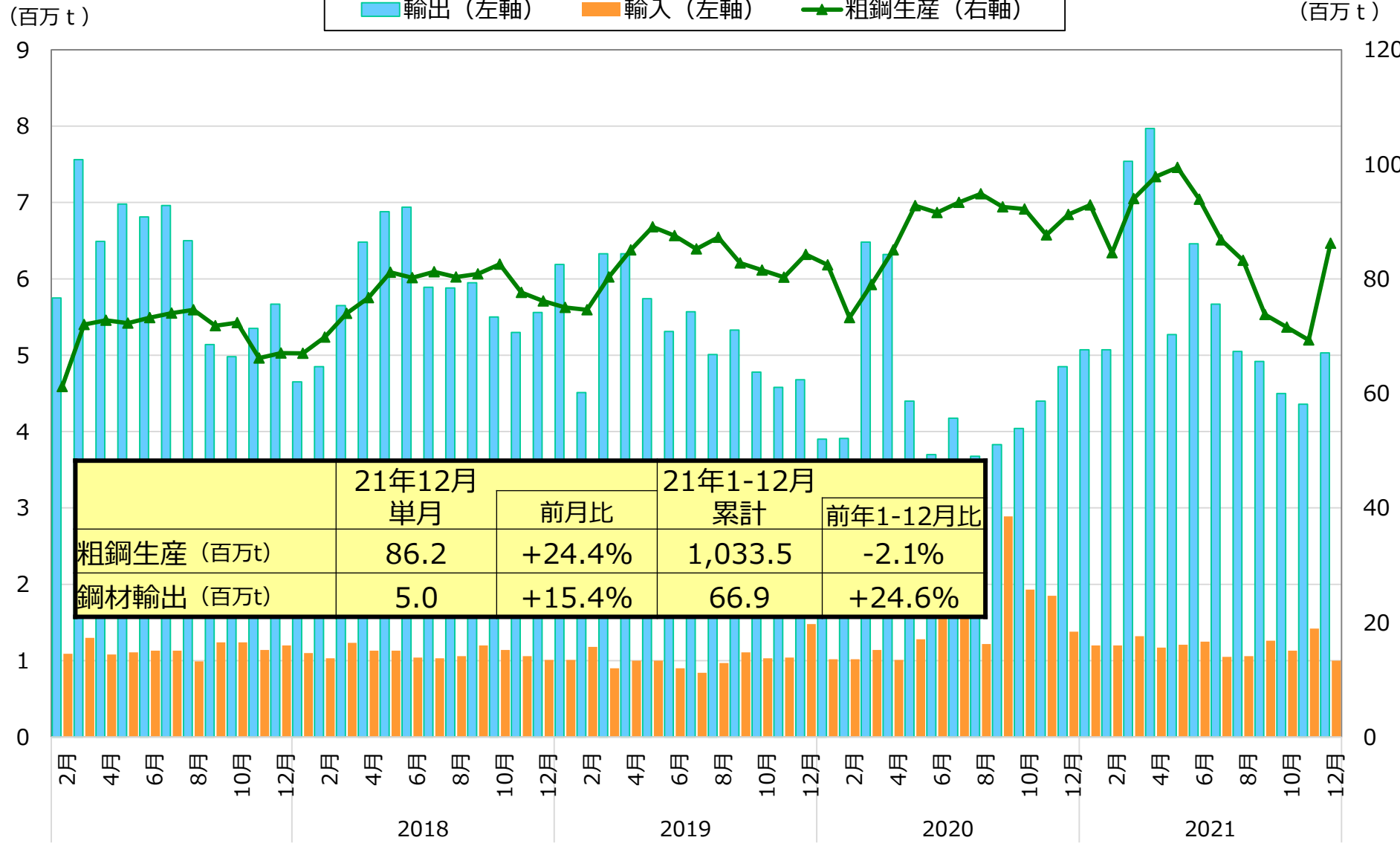
(千t)



	21年12月	前月比	前年 同月比	21年11月	20年12月
輸入鋼材 (千t)	363	-23 (-6.0%)	+4 (+1.1%)	386	359

海外販売環境

中国粗鋼生産・輸出入

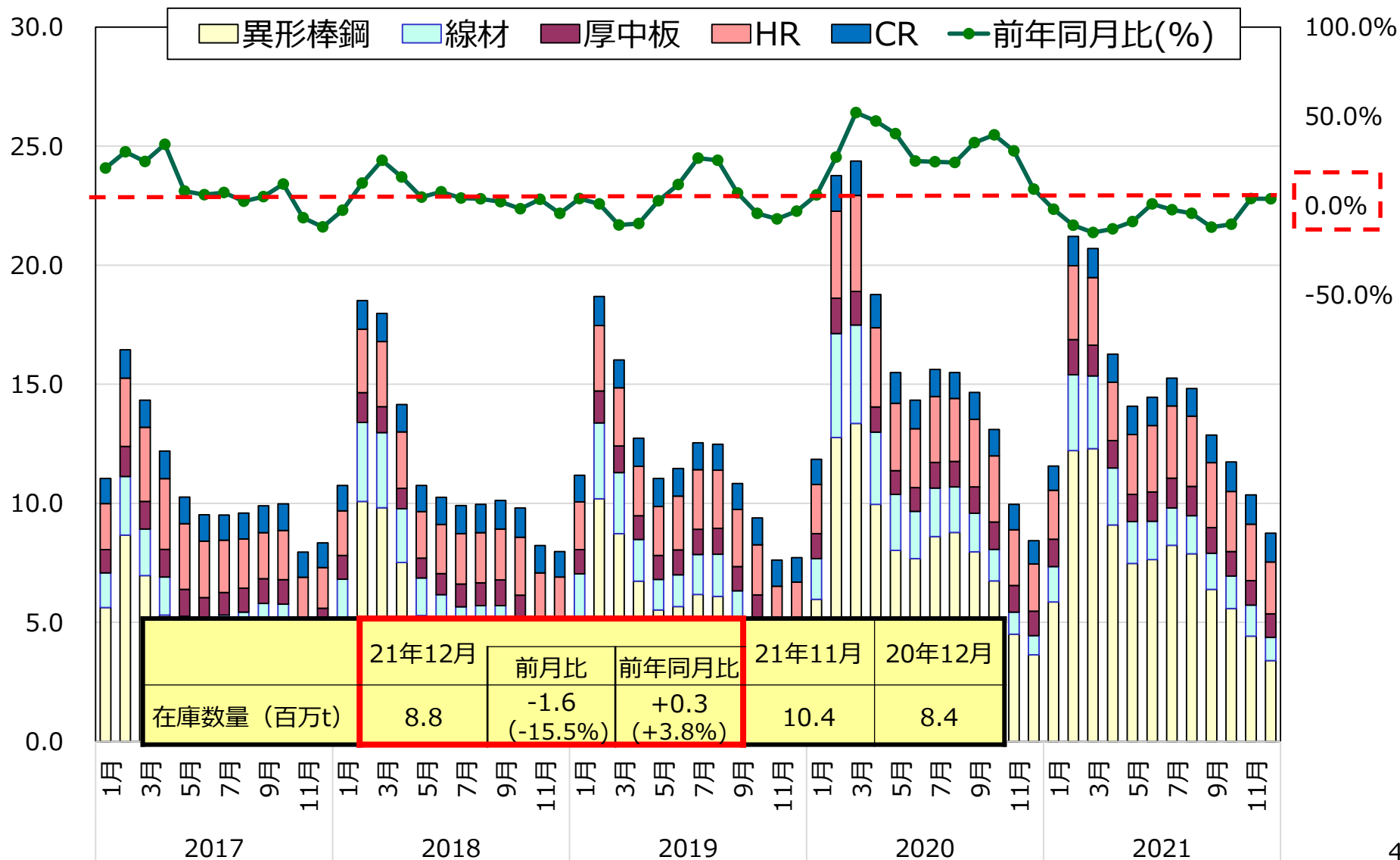


海外販売環境

中国品種別在庫数量



(百万 t)

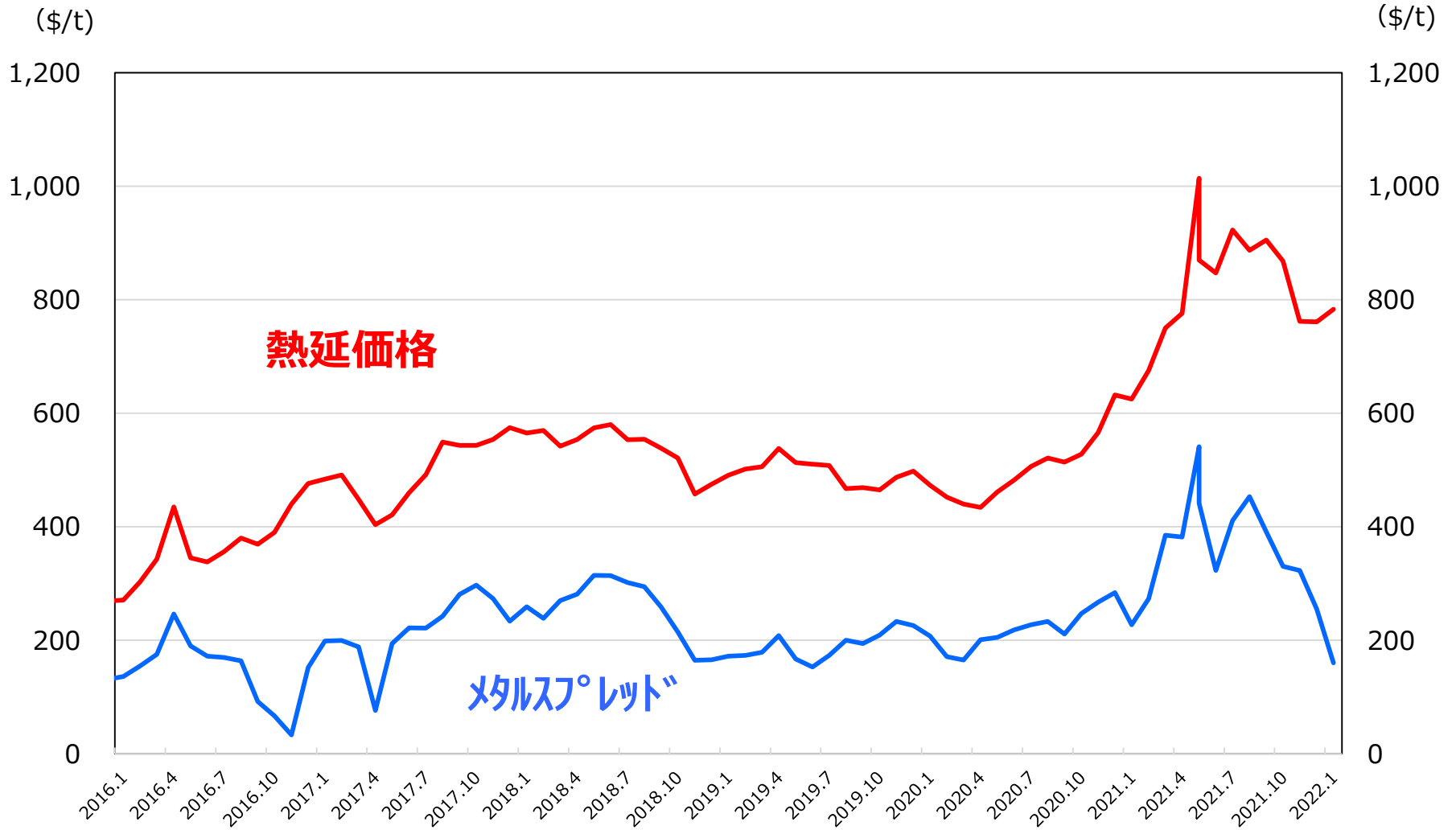




海外販売環境

(中国スポットベース)
メタルスプレッド

JFE



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

※熱延価格：中国21都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

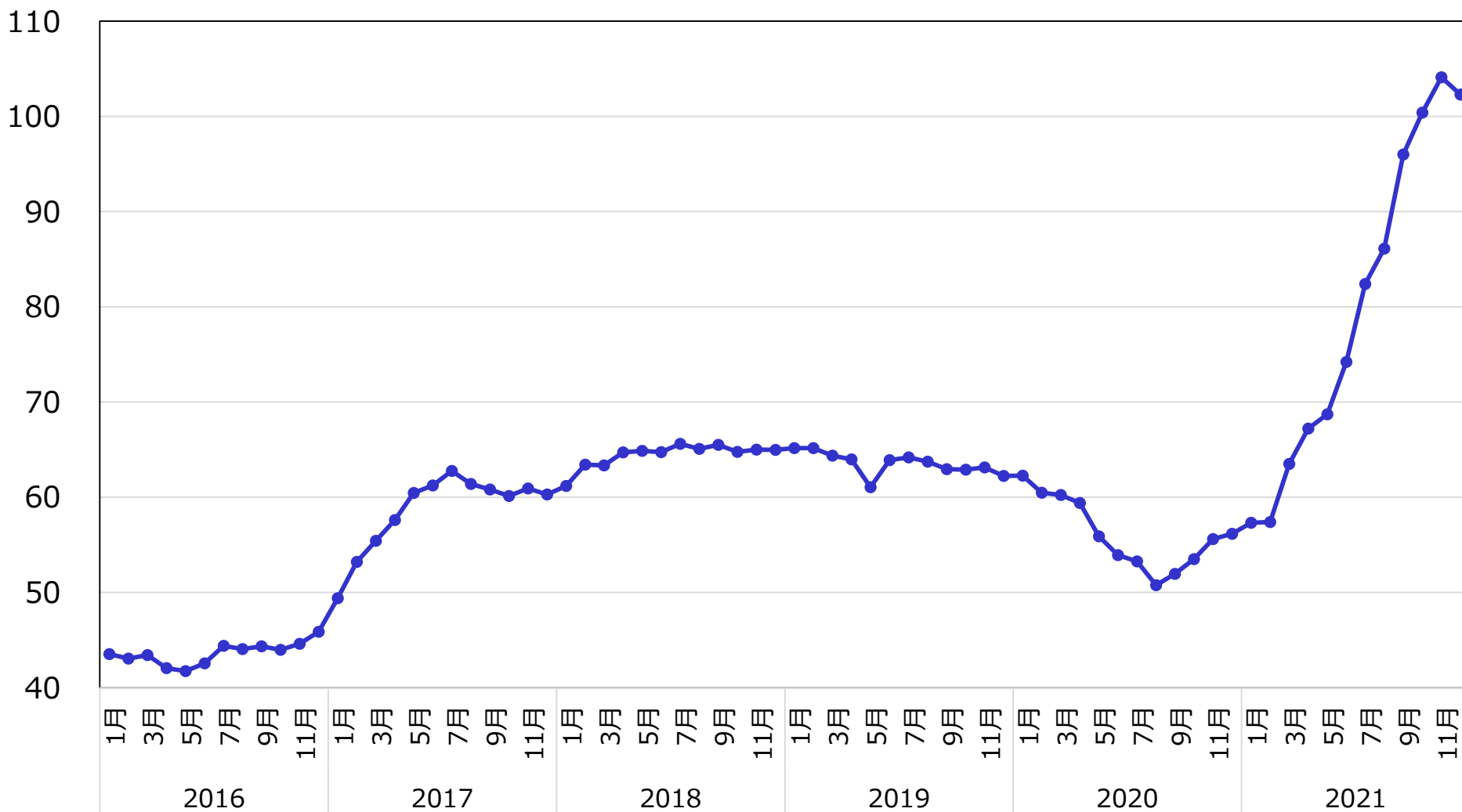


国内販売環境

輸入鋼材価格

JFE

(千円/t)



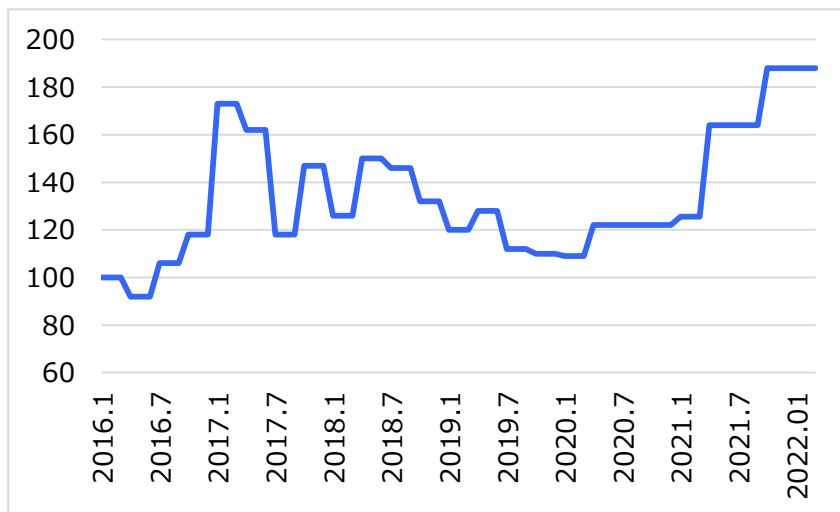
日本鉄鋼連盟データより作成（韓国から輸入の熱延広幅帯鋼）

原料

金属市況推移

JFE

(¢/lb) フェロクロム



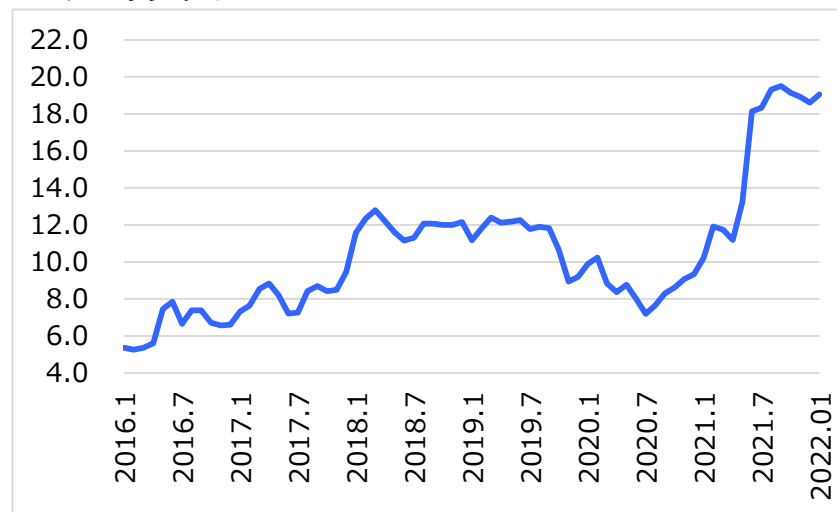
(US\$/t) 亜鉛



(US\$/t) フェロマンガン



(US\$/lb) モリブデン

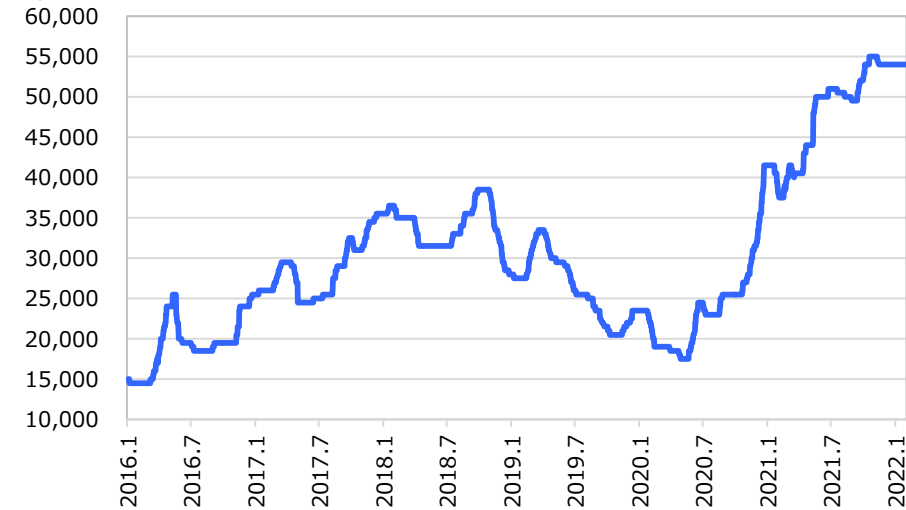


原料

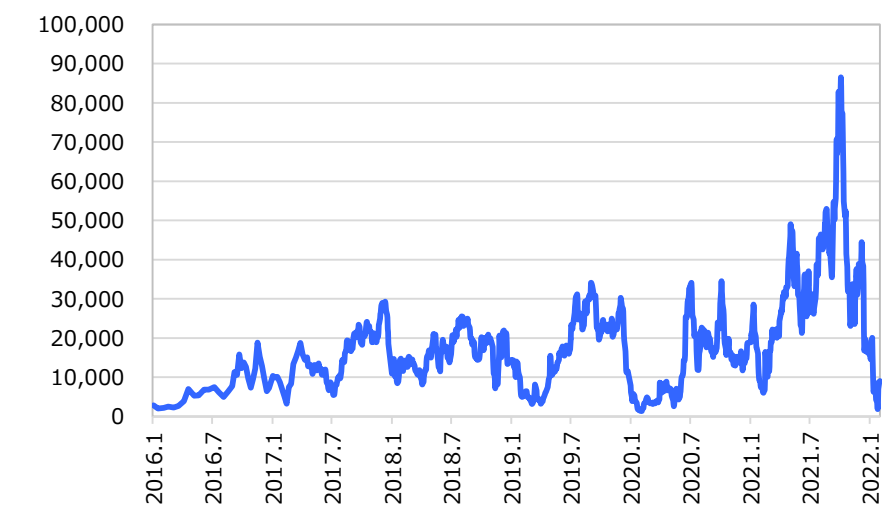
その他市況推移



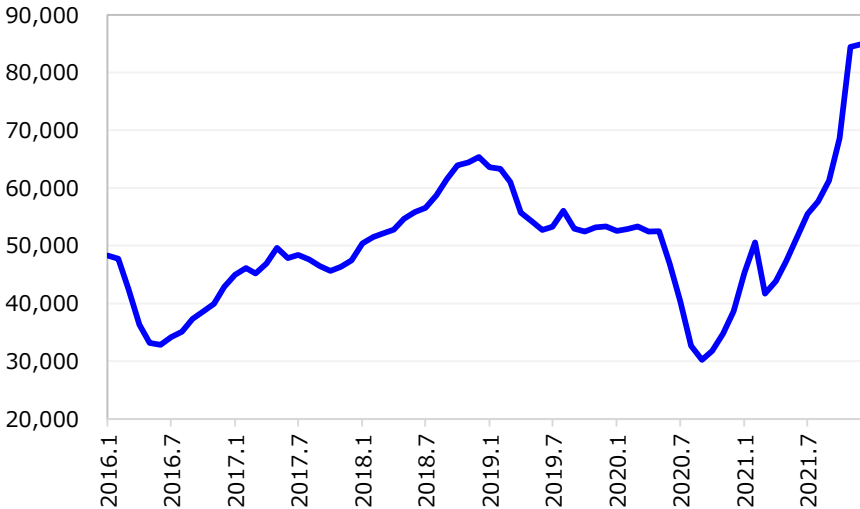
スクラップ市況



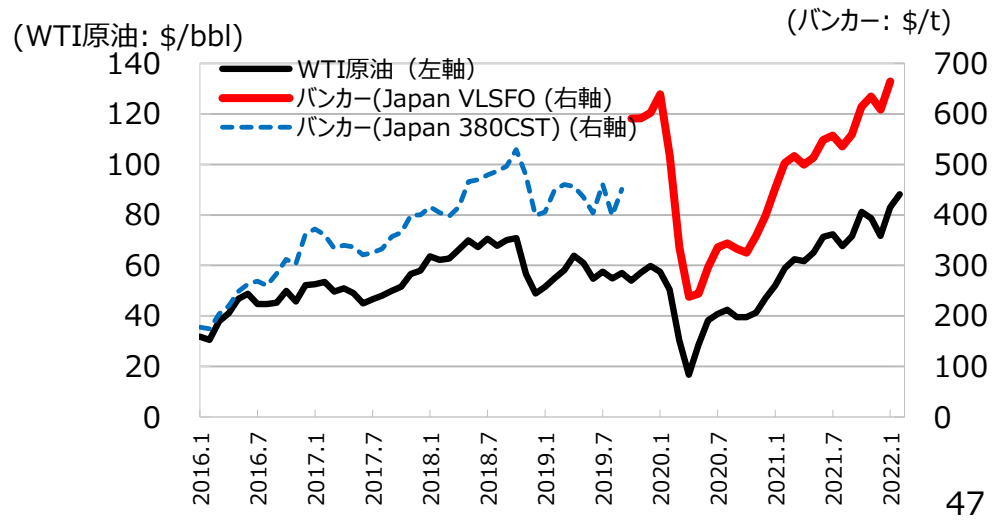
スポット備船市況



LNG市況



原油・バンカー市況



設備投資・構造改革スケジュール



設備		～19年度	20年度	21年度	22年度	23年度～
構造改革	京浜 上工程設備休止 (第2高炉・焼結・コークス炉・転炉・電気炉・連続鋳造機他)					★ 23年9月目途に休止
	京浜 熱延設備休止 (熱延ライン[除く酸洗・スキンパス])					★ 23年9月目途に休止
	京浜 冷延・表面処理ライン休止 (第1タンデム・第3CGL)		★ 19年度末休止			
	千葉 缶用鋼板設備休止 (第2タンデム・第2/4CAL・TFL・第2ETL)		★ 19年度末一部休止 (第2CAL・第2ETL)			★ 22年9月目途に休止 (第2タンデム・第4CAL・TFL)
新規稼働設備	千葉・倉敷 高炉改修			★ 倉敷第4高炉改修 (～21.12)	★ 千葉第6高炉改修 (22.9～12)	
	倉敷 連続鋳造			★ 第7連続鋳造機稼働 (21.6)		
	倉敷 電磁鋼板					★ 24年度 無方向性電磁鋼板 製造設備増強
	福山 コークス炉		★ 第3コークス炉A団	★ 第3コークス炉B団 (21.6)		
	福山 焼結		★ 第3焼結機稼働			
	福山 エネルギー			★ 共同火力発電所新2号機稼働		
	福山 フェロコークス			フェロコークス製造、運用技術開発		
	海外 メキシコNJSM			★ 自動車用CGL稼働		

JFEエンジニアリング 受注内容

(億円)

分野	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減	2021年度 主な受注内容 ★…第3四半期 新規・追加受注案件
Waste to Resource	2,200	2,200	0	国内廃棄物処理施設 新設工事[奈良、★名古屋] 国内廃棄物処理施設 基幹改良工事[高知] 海外廃棄物処理施設 新設工事[ベトナム]
カーボン ニュートラル	360	820	460	松川地熱発電所更新工事[岩手] 森バイナリー発電所建設工事[北海道] ★田原1区バイオマス発電設備建設工事[愛知]
複合 ユーティリティ サービス	110	150	40	
基幹 インフラ	2,341	2,130	▲211	姫路発電オフサイト設備設置工事[兵庫] ★入江崎総合スラッジセンター 汚泥処理施設更新工事[川崎] 国内橋梁新設 (東海環状自動車道[岐阜]) 国内橋梁改築 (東名高速道路 [静岡]、首都高速道路[東京]、 中央自動車道[長野])
合計	5,011	5,300	289	



ESG・取り組みに対する評価等

JFE

CDP評価 気候変動・水セキュリティ分野で高評価「A-」獲得

2021年12月7日 発表



- 英国環境NGOであるCDP発表の企業評価にて、当社が「気候変動」・「水セキュリティ」の2分野で**「A-」評価を獲得**
- 環境保全の継続的な取り組みやカーボンニュートラルに向けた対応が評価され、「気候変動」評価は**前年の「B」評価から1段階上昇**
- 「気候変動」「水セキュリティ」の両分野で「A-」評価を獲得したのは**世界鉄鋼メーカーでも最高水準の評価**

日本経済新聞社実施 「第5回日経スマートワーク経営調査」 ★4 評価獲得

2021年11月5日 発表

- 日本経済新聞社主催「第5回日経スマートワーク経営調査」にて、働き方改革を通じて生産性革命に挑む**「Smart Work 経営」**を実践している企業を選定
- 当社は**日本鉄鋼メーカー*最上位となる「★4」評価を獲得**
(前回評価「★3.5」から1段階改善)

*高炉、電炉、他鋼材メーカー



コーポレート・ガバナンス報告書を改定

2021年12月3日 発表

- 東京証券取引所の市場区分見直しに連動し、改訂コーポレートガバナンス・コードが公表(2021年6月)
- 当改訂コードに対応し、プライム市場上場に合わせて**コーポレートガバナンス報告書の記載内容を更新**

今年度発行資料 リンク集

資料名	URL	QRコード
JFEグループレポート 2021 (統合報告書)	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html	
CSR報告書 2021	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/data/index.html	
CSR報告書 2021 環境データ集	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/2021/2021_08.pdf	
DXレポート 2021	<2月18日 公開予定>	



JFE

Copyright © 2022 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい